

～省エネで経営力アップ～

Vol.4 製造業編

製造業から 重要な経営戦略としての 省エネを学ぼう！



オフィス・
事務所

ホテル・
旅館・
宿泊業

製造業

飲食業

小売業

運輸業

沖縄県内における 特定事業者等の概況

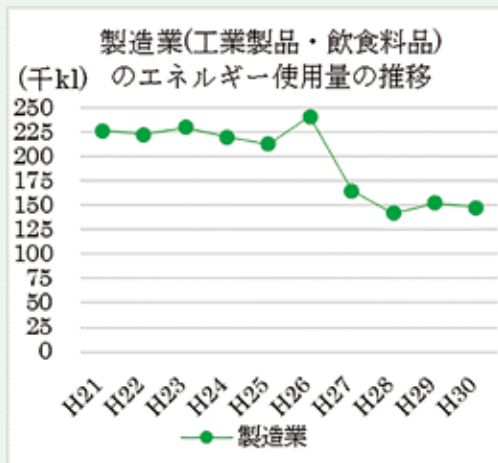
エネルギーの使用の合理化等に関する法律ではエネルギー使用量が一定規模以上の特定事業者、エネルギー使用状況などを報告するよう法律で義務づけています。

今年度、県内においては86の特定事業者が報告対象となり、その総エネルギー使用量は昨年度比5・5%減の214万2千KLと、過去最小となりました。県内における入域観光客数の一千万人突破など、エネルギー需要の高まりは今後も継続されることが見込まれますが、総エネルギー使用量の削減が達成されており、特定事業者の省エネに対する意識の高さが伺える結果となりました。

製造業における 省エネ対策

今回のテーマである「製造業」については飲食料品及び工業製品ともにエネルギー使用量が前年度から削減されており、特に、工業製品の製造を行っている特定事業者については、大幅にエネルギー消費原単位も改善されています。このこ

とからも省エネを経営課題として捉え、積極的に対策を行っていることが伺えます。



製造業においては、主な省エネの取組事例として、ボイラやコンプレッサーなどのエネルギー消費の大きい設備を省エネタイプへ更新することや、デマンドの監視及びコントロールを行い、使用電力のピークカットを図ることなどが挙げられます。

その他にも、エネルギーマネジメント体制の再構築や、省エネの意識啓発活動を行うなど、ソフト面における取組事例も多く報告されています。ハード面とソフト面の省エネをバランスよく実施してこそ、質の高い省エネや持続可能な省エネにつながります。

原油換算ツールで 自社のエネルギー使用量を確認！

経済産業省資源エネルギー庁HP ↓

https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/procedure/index.html

→URL内の原油換算ツールにて
エクセルをダウンロード！



もしかして特定事業者に 該当するかも？

年間のエネルギー使用量が1500KL以上ある場合は「特定事業者」として、国へエネルギー使用状況等を報告しなければなりません。報告対象者かどうか確認する方法として、資源エネルギー庁HPに掲載されている原油換算ツールをご利用下さい。各燃料種に応じた使用量を入力すると原油換算値に変換されるシステムとなっています。

今回の「製造業編」では、ペットボトルなどの生産を行っている「琉球製罐株式会社」の省エネ取組を紹介します。

■取組のきっかけ・背景

琉球製罐株式会社では、競争力のあ
る上質な製品を効率よく製造し提供す
ることを目指し、省エネに取り組んでい
ます。そのきっかけとして、はじめに契
約電力の見直しを図りました。また、
親会社である東洋製罐株式会社と同様
な省エネなどに係るマネジメント体制を
確立させ、現在では省エネのみならず経
営における重要な役割を担っています。

「品質」「環境」「食品安全」をモットーに！

琉球製罐株式会社



〒905-0007
名護市字屋部 854-11
TEL.0980-52-2778
URL:<http://www.ryucan.com/>
<主な省エネ対策>

- ①コンプレッサーの改良
- ②エネルギー管理体制の充実
- ③契約電力の見直し
- ④計画生産

・平成 20 年
エコアクション 21 認証取得
・平成 26 年
統合マネジメントシステム (TMS)
認証取得 (FSSC22000、ISO9001、ISO14001)

■主な取組

①コンプレッサーの改良

コンプレッサーにおいてはエア回収
システムを導入し、従来、無駄に放出
されていた空気をタンクへ貯蓄するこ
とで、エアを設備の動力として再度
有効活用することが可能となりました。
現在では、無駄のない設備運用
を実現しています。



↑コンプレッサー
エア回収システムにより稼働台数が
3台→2台へ縮小！

②TMS委員会の設置

親会社と同様の取組としてTMS
委員会を設置しています。

当委員会は、月に1度、各部署の
役職者や社長も交え、品質向上や顧
客対応、食品安全、環境管理などに
ついて議論を行っています。その中で、
電力使用量や、エネルギーマネジメン
ト状況の共有など、省エネに関する

テーマも議論され、経営戦略のひとつ
として省エネが位置づけられています。

具体的には、生産ラインの稼働計
画を綿密にたて、従業員の労務管理
にも活かすことで、製造に係る電力コ
ストを削減でき、かつ残業時間の削減
にも繋がりました。

さらに、契約電力を超過しないよ
うにするため、毎日、電力使用量の
予測及び測定を行い、使用量が契約
電力へ近づくと、注意灯を点灯させ、
職員へ周知するなど、省エネ意識の啓
発も徹底して行っています。



↑大小様々なペットボトルを生産！
保管する倉庫も大規模！

■改善効果と今後の取組

これまでの取組が功を奏し、2017
年度から2018年度にかけてはペット
ボトルの生産数量が大幅に増加したにも

関わらず、使用電力の減少を達成する
ことが出来ました。櫻井社長は、「今後
も上質な製品づくりと更なる省エネの余
地について議論をかさね、品質、環境、
食品安全をモットーに地元企業として
お客様に選ばれる製品づくりを進めてい
きます。」と決意を述べられていました。



櫻井社長（中央）はじめ、職員の皆様と記念撮影

○無料の省エネ診断
一般財団法人省エネルギーセンター
によるおトクな支援情報

○省エネのお悩み、
何でも相談
(相談窓口)

○省エネ設備・
機器導入費用
補助支援



～次回予告～

省エネ最前線 Vol.5 運輸業編

